

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標		自らの将来をたくましく切り拓き、心身ともに健康で充実した生活を営むことができるよう、次に掲げる人間の育成を目指す。 ○互いの人格を尊重する心豊かな人間 ○努力を惜しまず意欲的に行動する人間 ○学と業をもって社会に貢献する人間		学校整理番号	特1
(2) 現状と課題		本校では、ロービジョン相談支援センターを設置し、視覚障がいや聴覚障がい教育に関することを中心に相談活動や理解・啓発活動を積極的に行っているが、在籍する幼児児童生徒数は減少している。また、重複障がいや有する幼児児童生徒から中途視覚障がい成人生徒まで在籍するなど、実態は多様化している。そこで、教員の視覚障がい教育を始めとした特別支援教育の専門性の維持・向上を図ると共に、関係機関との連携を強化し、視覚障がい教育のセンター的機能を充実させることが課題となっている。		学校名	青森県立盲学校
(3) 重点目標		1 授業の充実 2 視覚障がい等に関する専門性と指導力の向上 3 安全で安心な教育的環境の充実 4 ロービジョン相談支援センターの充実 5 キャリア教育の推進と進路指導の充実 6 地域との連携を深化した学びの拡充		対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱
(4) 結果の公表		・保護者会時の説明及び紙面による保護者への公表 ・学校ホームページへの掲載		自己評価実施日	令和6年12月15日(月)
				学校関係者評価実施日	令和7年2月18日(火)
				(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 学校運営協議会委員10名 ・大学教授1名 ・視覚障がい者情報センター職員1名 ・視覚障がい者協会役員(本校元教頭)1名 ・卒業生1名 ・地域住民2名 ・視覚障がい者用支援機器業者1名 ・卒業生保護者1名 ・福祉事業所関係者1名 ・校長1名	

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業の充実	①学習指導要領を基軸とした各教科等の学習内容の基礎・基本の定着 ②体験活動や言語活動の充実による思考力の育成、学年や校種を超えた個々の主体的・対話的で深い学びについて柔軟に対応する場面や環境の設定 ③関係各校との交流及び共同学習の充実 ④実態に即し各教科等柔軟に対応した道徳教育の実践 ⑤教材・教具並びにICT機器を効果的に活用した分かる授業の推進	①職員による授業参観や授業研究会を実施し、相互にアドバイスし合い授業改善を行った。 ②外部専門家を活用した授業や、体験活動を積極的に実施した。また、活動方法を工夫し主体的・対話的な活動を行った。 ③これまでの学校間交流や居住地校交流に加え、新たに居住地の保育園との交流、近隣の高校との交流を行った。 ④道徳教育推進教師を中心に時間における指導の充実を図る他、教育活動全体を通して全校的に指導を行った。 ⑤分かる授業を目指し、教材・教具やICT機器を日常的に活用していた。	A	・ICT機器の活用が活発になっている。さらに、活用方法が多様化して良い。 ・町内会長として、視覚障がいを有する幼児児童生徒がこの地域で安全に活動できるよう見回りをしていきたい。	・児童生徒の主体的・対話的で深い学びを充実させ、教材・教具並びにICT機器を効果的に活用し、分かる授業を目指す。 ・幼児児童生徒の実態やねらいを整理し、交流及び共同学習を展開する。
2	視覚障がい等に関する専門性と指導力の向上	①校内・校外研修の充実と積極的な受講 ②教科指導等に関する実践的研究の充実 ③研究授業や授業見学による実践的指導力の向上 ④寄宿舎における生活指導・余暇活動の充実 ⑤視覚障害教育におけるICTの効果的活用、デジタル教材の活用やアシストテクノロジーの最新動向の把握	①視覚障がい教育やICT、安全教育等、外部専門家も活用した研修を企画し、寄宿舎指導員を含む職員は積極的に参加していた。 ②校内研究は、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教科指導・生活指導の充実に向けて各グループで実践的研究を行った。 ③職員による授業参観や授業研究会を実施し、相互にアドバイスし合い、指導力の向上に努めた。 ⑤ICT活用に関する研修会を実施し、効果的に授業で活用していた。	A	・校内研修が進化していると感じる。学校全体で細やかに取り組んでいて、内容も充実している。 ・寄宿舎では生活指導の場面が多い。他機関や他校の見学をして、生活指導の研修を続けてほしい。	・視覚障がい教育の専門性の維持・継承を図るために必要な研修を計画的に企画したり、校外研修への派遣ができる人材を育てる。 ・事故や授業を参観し合うなどして、指導力の向上を図る。
3	安全で安心な教育的環境の充実	①いじめや事故・怪我等の未然防止対策と生徒指導の充実 ②安全な給食の提供及び食育の推進 ③緊急時の避難・連絡体制の整備と堅実な訓練の遂行 ④複合型災害並びに自然災害への対応 ④各種感染症対策の徹底	①いじめ防止基本方針について幼児児童生徒及び教職員で確認し、いじめや学校生活等に関するアンケートを実施した。 ②栄養士や家庭科を中心に食に関する指導を行った。 ③複合型の災害や不審者への対応など、様々なケースを想定して訓練を行った。 ④いつもと体調が異なる場合は、別室で給食を喫食するなど感染防止を図った。	A	・アンケート等により、生徒の意見や職員側の課題が出てくることは良いことである。お互いが納得いく形で、しっかりと対応してほしい。	・アンケートから見えた課題を職員で情報共有したり、普段から幼児児童生徒の言動を観察したりして、いじめや事故等の防止に努め、安全・安心な学校を目指す。 ・様々な災害等を想定をした訓練を行い、有事の際に備える。
4	ロービジョン相談支援センターの充実	①教育相談の充実及びサテライト相談教室の活用 ②オンライン教育相談の充実 ③弱視特別支援学級への支援と連携 ④関係機関とのネットワークの積極的構築 ⑤ソーシャルメディアネットワークを活用した広報・理解啓発活動の充実 ⑥保護者や地域との連携や丁寧な対応	①⑥障がいや養育、学習環境等について、幅広い年齢層に合わせて相談活動を展開することができた。また、新たに弘前大学病院でのアウトリーチを実施した。 ②オンラインによる教育相談はなかったが、電話による相談を行った。 ③弱視学級担任へは、本校研修への呼びかけや学校を訪問しての情報交換などをを行い支援した。 ④各教育事務所や各市町村関係部署等を訪問し、理解啓発をすると共に、連携を強めた。 ⑤You Tube、Instagram、Webサイトで広報活動を行うことができた。	A	・センターの機能として校外支援は、きめ細やかに行っていると感じた。 ・保育園やこども園の玄関に本校教育相談についてのチラシを掲示してもらった。チラシは、惹きつけられやすいようなデザインにする。QRコードを有効的に使用する。 ・広報活動として、市町村広報の活用やラジオの活用はとても良い。	・全職員がロービジョン相談支援センターの役割を担うことを意識して、活動の分担を行い運営する。 ・保育園や関係機関等に本校教育相談のチラシの掲示を依頼したり、ソーシャルメディアを活用したりして、本校の理解・啓発を図る。 ・弱視特別支援学級への支援を定期的に行う。
5	キャリア教育の推進と進路指導の充実	①キャリア教育の視点を取り入れた教育活動の実践 ②一人一人の進路実現に向けた積極的な進路指導の展開 ③現場実習及び施設等見学の充実 ④公務員採用試験及びあはき国家試験への積極的支援 ⑤福祉事業所の連携並びに進路開拓の推進	①教育活動全般においてキャリア教育の視点を取り入れ、実践した。 ②③④⑤生徒個々の進路実現に向けて生徒や保護者も含めて丁寧話し合い、見学や実習、模擬試験等、積極的に進路指導を行った。	A	・あはき関係の求人が少ないと感じている。働く場所の開拓について、皆さんと一緒に考えていきたい。	・教育活動全般においてキャリア教育の視点をより意識し、教育活動を実践する。 ・一人一人の進路実現に向け、見学や実習、受検に向けた学習や準備等計画的に実施していく。
6	地域との連携を深化した学びの拡充	①地域との連携を一層強化し、地域資源を活用した学びの充実 ②近隣学校並びに地域イベント等への参加を通じて、地域社会との連携の深化	①②今年度は新たに居住地校交流と高校とのスポーツ交流を行った。また、地域住民に本校行事への参加を呼びかけ、交流することができた。	A	・行事等の地域へのチラシは、イラストや写真等を載せるなど、参加したいと思われるように工夫する。	・近隣の学校と交流したり、地域住民に本校行事等への参加を積極的に行ったりして開かれた学校づくりを推進する。
(11) 総括	保護者アンケートの評価点の全体平均は4段階評価の「3.7」で高評価となっている。このことから、学校の教育活動に対して、保護者からは概ね理解が得られていると考えられる。 本校は令和7年度に創立100周年という節目の年を迎える。これまで受け継いできた伝統とこれからの新たな時代に向けて、まずは上記の課題解決に取り組み、一步一步歩んでいきたいと考えている。					